

家具の転倒防止器具、表示どおりの効果が得られない？！

～器具の組み合わせによる使用が有効です！～

東日本大震災からまもなく4年が経過しようとしています。消費者の防災意識の高まりを受け、現在、様々なタイプの家具の転倒防止器具が販売されていますが、中には「震度7対応」、「震度7でも転倒を防いだ」等の効果を表示した商品も見られるようになりました。

そこで都は、市販されている転倒防止器具の性能を調査するため、商品テストを行いました。

1 テスト内容

壁や家具を傷つけることなく設置できる「粘着マット式」、「ストッパー式」、「ポール式」の3種類の家具転倒防止器具を購入し、家具（タンス、食器棚）に取り付けて、兵庫県南部地震の神戸海洋気象台の地震波（震度6強相当）及び同地震波を60%にしたもの（震度6弱相当）で加振するテストを行いました。



試験状況

《今回購入した検体のタイプ》

粘着マット式	ストッパー式	ポール式
粘着性のゲル状のもので、家具の底面と床面を接着させる器具	家具の前下部にくさび状に挟み、家具を壁側に傾斜させる器具	家具と天井の隙間に設置する棒状の器具

2 テスト結果

★「震度7対応」の表示で期待する効果が得られない場合が！！

◎今回テストした7検体には、震度7相当での効果を期待させる表示をした商品もありましたが、震度6強相当の地震波でテストしたところ、7検体全てで家具が転倒（転倒相当を含む）しました（別紙表1）。

◎さらに、明確な震度表示が無い3検体について、震度6弱相当の地震波でテストしたところ、1検体で家具が転倒しましたが、2検体は10～30cm程度の移動にとどまり、家具は転倒しませんでした（別紙表1）。



震度6強相当で加振後の状況

★器具を家具の上下に組み合わせて使用すると効果が高まる！！

◎単体使用では家具が転倒した器具を食器棚の上下に組み合わせて固定し、震度6強相当の地震波でテストしたところ、家具が転倒せず、10cm以下の移動に抑えられたケースがありました（別紙表2）。



当テスト結果は、大型の家具（タンス・食器棚）を対象として、特定の地震波、設置方法等の条件で実施した試験によるものであり、転倒防止器具の効果の有無や優劣を示すものではありません。

詳しい内容は、こちらをご覧ください。



<http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzaen/>

【問合せ先】

消費生活部生活安全課

内線 29-871 電話 03-5388-3082

3 消費者へのアドバイス

家具の転倒・落下・移動防止対策は、地震時のケガや避難障害の発生を防ぐため非常に大切です。

○転倒防止器具は、地震の大きさや取り付ける家具等、条件によっては期待される効果を発揮できない場合があります。表示を過信することなく、図1を参考に家具の上下に器具を組み合わせる等、できるだけ効果の高い対策を図りましょう。

○器具の使用だけでなく、ケガや避難の妨げにならないよう、家具の置き方を工夫しましょう（図2）。

○納戸やクローゼット、据え付けの家具へ収納することにより、なるべく生活空間に家具を置かないようにしましょう。

使用条件	器具の効果				
	小				大
単独使用	ストッパー式 	ボール式 	L型金具 (スライド式) 	L型金具 (上向き取付け) 	L型金具 (下向き取付け)
	マット式 		ベルト式 	プレート式 	
組合せ使用	家具と天井に十分な強度が必要		家具、壁面や器具に十分な強度が必要		
			ボール式 + マット式 	ボール式 + ストッパー式 	

図1 転倒防止器具の効果

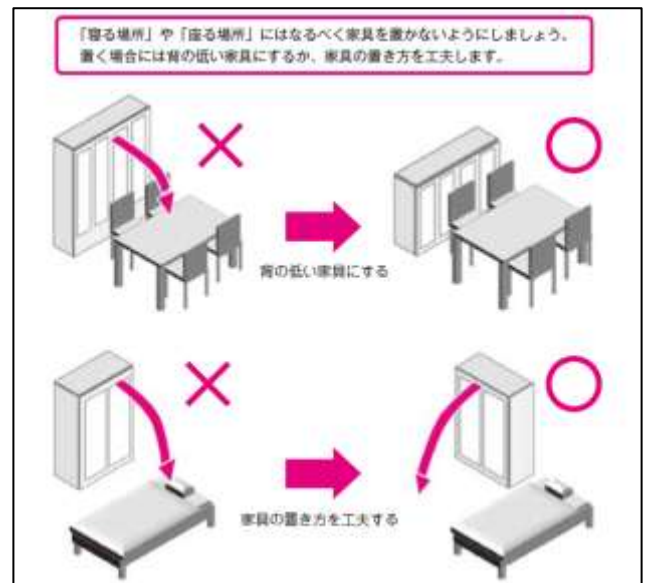


図2 家具の置き方の工夫

参考：東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/all.pdf>

4 事業者への要望・情報提供

(1) 事業者への要望

事業者に対し、消費者に器具の性能について過度な期待を持たせない、取付方法や対象とする家具を明記する等、わかりやすい表示をするよう要望しました。

(2) 国・業界団体への情報提供

- 消費者庁 消費者安全課
- 消費者庁 表示対策課
- 経済産業省 商務情報政策局
- 総務省消防庁 国民保護・防災部 防災課
- 一般社団法人 日本オフィス家具協会
- 一般社団法人 日本家具産業振興会
- 一般社団法人 日本ドウ・イット・ユアセルフ協会
- 公益社団法人 日本通信販売協会
- 日本チェーンストア協会